

# 3 草薙駅周辺地区全体の景観づくりに向けて

草薙らしい景観づくりのためには、身近なところから、景観形成に向けた取り組みをしていくことが重要です。「くさなぎ景観デザインブック」の考え方は、メインストリートだけではなく、草薙駅周辺地区における「周辺住宅地」、「大規模開発」、「公共公益施設整備」などでも項目によって、取り入れていきましょう。

まち全体に「庭」のような空間が広がるように、メインストリートでの取り組みに倣い、景観デザインに取り組んでいきましょう！

## (1) 緑豊かな住宅地等の形成

### 多彩な緑で街を演出する

- ・高木や中木、生垣、草花など多彩な緑を組み合わせることで生活に彩りが生まれ、街並み全体の景観も向上していきます。庭先や敷地内、軒先などに少しずつ緑を取り入れましょう。また、建物の屋上緑化や壁面緑化なども効果的です。



花壇の例（静岡県清水区）



住宅の緑化の例（埼玉県三郷市）

隣接する敷地等が生垣などで設えられている場合は、その連続性を確保しましょう。

### 歩きたくなるような街路空間を創出する

- ・緑を多く感じる街並みとするためには、通りから見える部分へ緑を配置することが効果的です。通りから見える部分にプランターを置いたり、道路との境界部分を生垣にするなど、緑あふれるみちになるように工夫しましょう。
- ・敷地内では、四季を感じる植栽を行うなど、季節感の演出に努めましょう。



住宅の緑化の例（埼玉県浦和市）



集合住宅の共有部分などには、みんなが憩える緑空間をつくりましょう。

屋上緑化の例（神奈川県川崎市）

### 地域が一体となって身近な緑を守り、育む

- ・地域には、沿道の花壇の手入や公園の清掃活動など公共空間の維持管理活動を官民連携で行っている団体があります。まずは気軽に参加してみましょう！





## (2) 景観に配慮し洗練された建造物

### 文教地区としてのイメージをまち全体で享受できる環境を作る

- ・建物の外壁や色彩は、県立美術館や県立大学など、文教地区として印象付ける施設が使用しているブラウン系を基調としましょう。
- ・大規模建築物等※<sup>3</sup>では、周辺の建築物が用いている色相を参考に、建物の外壁の色彩を選定しましょう。まち全体で統一した印象を感じられるよう、壁の色相、明度、彩度等をそろえましょう。
- ・外壁に使う色数はできるだけ少なくし、かつ、少量でも派手な色彩の利用は極力控えましょう。
- ・特に低層部は周辺の建築物との協調に努めましょう。

### 草薙ならでは資源を活かす

- ・有度山や竜爪山への良好な眺望を確保するよう、突出し広告や壁面広告は、極力低層部に設置しましょう。
- ・広告物は、原則として自家用の広告物とし、必要最低限度の規模にとどめましょう。



色彩の協調例（神奈川県横浜市）



設えの協調例（大阪府大阪市）

### 統一感を感じられる設えにする

- ・周辺の建物や設えと色彩、素材、形等を揃えることで、まち全体として統一感を感じられる空間になるよう工夫しましょう。

#### ※3 大規模建築物等

静岡市大規模建築物等ガイドラインに定める届出が必要な建築物・工作物

|                |                                                   |
|----------------|---------------------------------------------------|
| 届出に係る規模：建築物の高さ | 商業系・工業系用途地域・・・15mを超えるもの<br>上記以外の区域・・・・・・10mを超えるもの |
| 工作物の高さ         | 10mを超えるもの（煙突、記念塔、電波塔等）                            |
| 建築物の面積         | 延べ面積の合計が1,000m <sup>2</sup> を超えるもの                |

## (3) 安全安心な環境づくり

### 誰もが快適に移動できるみちづくり

- ・十分な歩道幅員を確保することで余裕をもって通行する事ができ、快適な歩行空間の創出に繋がります。敷地に余裕がある場合は、敷地境界まで距離をとり、広々とした歩道空間の確保に努めましょう。
- ・敷地内でもバリアフリー※<sup>1</sup>環境を整えると共に、こどもから高齢者の方、障がい者の方など全ての人が安心して通行する事の出来る街路空間をめざしましょう。
- ・段差を作るのではなく、舗装の色や材質を工夫することで、注意を促しましょう。



歩道の例（神奈川県藤沢市）



歩道の例（神奈川県藤沢市）

### 死角のない街角をつくる

- ・夜間においても、誰もが安心して歩くことができ、また車が安全に走行できるように、住宅などでも照明灯の配置を行い、暗いところをつくらず、なるべく人気を感じられる環境づくりをすることで、まちの防犯性向上や交通環境の安全性の向上を目指しましょう。



道路照明と合わせて、住宅なども照明を設置することで、歩行者の安全を確保した沿道空間となります。

夜間景観の例（埼玉県浦和市）

玄関灯などを設置し、人の気配を感じさせる街路空間づくりのイメージ

